

1. 広島                      2. 札幌                      3. 大阪                      4. 福岡

1. 下流の都市圏へ供給する生活用水の安全と、琵琶湖の生態系を守るため

2. 名古屋を中心とする都市圏への送水量を増やし、工業発展を支援するため

3. 琵琶湖での外来魚の繁殖を抑制し、伝統的な漁法を保護するため

4. 琵琶湖周辺での農業生産を拡大するために、化学肥料の使用を促進するため

1. 奈良県                      2. 滋賀県                      3. 京都府                      4. 和歌山県

1. 志摩半島                      2. 京都盆地                      3. 濃尾平野                      4. 大阪平野

1. 転入超過                      2. 社会増                      3. 転出超過                      4. 自然減

1. 三重県                      2. 滋賀県                      3. 兵庫県                      4. 京都府

1. 日本最大の人口規模を持ち、国会議事堂や最高裁判所などの首都機能が集中している

2. 大阪市、京都市、神戸市の三つの政令指定都市が中心となって圏域を形成している

3. 本州と四国を結ぶ交通の要衝として、瀬戸大橋を通じて経済圏が拡大している

4. 中京圏とも呼ばれ、自動車産業を中心とした工業地帯として発展している

1. 看板の設置面積を減らすことで、建物にかかる固定資産税を軽減するため

2. 老朽化した歴史的建造物の解体を進め、土地の再開発を促進するため

3. 歴史的な街並みとの調和を図り、地域の景観を保全するため

4. 高層ビルの建設を推奨し、近代的な都市景観への作り替えを急ぐため

1. 琵琶湖から流れる水は、人口密度が高い下流地域の膨大な数の人々にとって、欠かせない生活用水となっているから。

2. 下流の大阪府や京都府は人口密度が低いので、水の需要が少なく、水質が悪化しても社会的影響が小さいから。

3. 琵琶湖の水質が悪化すると、下流にある大阪湾の塩分濃度が急激に上昇し、漁業に深刻な被害が出るから。

4. 琵琶湖の水は滋賀県内のみで消費される仕組みになっており、下流の府県では農業用水としてのみ利用されているから。

1. 琵琶湖                      2. 霞ヶ浦                      3. 中海                      4. サロマ湖

1. 熊野川の水運を利用して、上流の山地から運ばれた木材を加工する製材業が発展した。
2. リアス海岸の複雑な地形を利用して、真珠やカキの養殖業が地域経済を支えている。
3. 大規模な港湾施設を整備し、海外から鉄鉱石を輸入する鉄鋼業が中心となっている。
4. 広大な平野と温暖な気候を活かして、輸向け施設園芸農業が発達した。

1. 総人口の減少に伴い、年少・生産年齢・老年すべての区分が減少する。
2. 生産年齢人口と年少人口がともに減少し、老年人口のみが増加する。
3. 年少人口と老年人口がどちらも増加することで、総人口の減少が相殺される。
4. 老年人口の増加よりも年少人口の減少が緩やかなため、少子化が改善に向かう。

1. 一年を通じて気温の変化が小さく、降水量は梅雨や台風の時期にのみ集中している。

2. 年間降水量が比較的少なく、冬の気温が氷点下近くまで下がるなど、夏と冬の気温差が激しい。

3. 年間降水量が2,500mmを超え、夏は南東からの季節風によって非常に蒸し暑い日が続く。

4. 冬の降水量が夏の降水量を上回り、北西からの季節風によって長期間の降雪が見られる。